

# I 平成 28 年度の運営総括及び来期の課題

## 1. 乳幼児事業

### (1) 総括

今年度は従来に来館者に加え、新規の親子連れが多く来館した年になりました。南区だけでなく西区、中央区、秋葉区からも多くの来館がありました。友達の紹介や口コミで児童館を知った方も多く、広く児童館が地域に周知されてきた年だったと思います。また今年度から新しく取り入れた「ママのためのハッピータイム」やオーエンジャー☆みなみ主催の「にゃんこの手」は子育て中の母親のニーズにぴったり合い、毎回楽しみに来館される保護者がいました。乳幼児の利用時間帯は平日の午前中が 0～3 歳の未就園児、夕方は保育園幼稚園帰りの 3～6 歳児とはっきりと分かれており、それぞれ年齢にあった遊びを提供してきました。また、今年度は子育て中の母親を対象にしたイベントが多かったせいか児童館で知り合った母親も多く、子ども達を伸び伸びと遊ばせながら母親同士で情報交換をしたり、会話を楽しんでいる場面も良く見られました。週末は父親が子どもを連れて来館する方も多かったため、6 月には講師を招いて「パパと遊ぼう」というイベントも実施し、好評でした。今後も児童館を通し、親子、夫婦、友達がより良い関係でいられるお手伝いができたらと思います。

#### ①いちごタイム

今年度も毎週火曜日の 10 時 30 分から 30 分間、乳幼児の定例イベントとして、『いちごタイム』を開催しました。『いちごタイム』は入園前の幼児を主対象としていますが、今年は 2 歳児の参加が多かった年でした。いちごタイムは家庭から一歩出て同年齢の子ども達とも楽しく交流してもらうことも目的としており、保育園入園前に集団生活に慣らす練習のために参加される親子もいました。職員はそうした親子が参加しやすいように雰囲気づくりを大切にしながら親子を繋ぐ橋渡しを行ってきました。内容は主に季節に合った親子のふれあい遊びや手遊び、ゲーム、体操、リトミック等を提供してきました。

#### ②つくって遊ぼう

毎月第 4 木曜日の 11 時から親子で楽しめる簡単な工作を実施してきました。参加される親子は 0～2 歳の未就園児が主なので、子どもたちはシールを貼る、絵を描く、手でちぎるなど簡単な作業を行い、保護者が仕上げを手伝うという形で行いました。内容は「こいのぼり」「たなばた飾り」「おひなさま」等の季節に合わせた工作や、牛乳パックや紙皿などの廃材を使って親子で遊べる工作を提供してきました。出来上がった作品を手同年齢の子どもに見せ合ったり、満足そうに職員にみせてくれる笑顔はとても可愛い様子でした。

#### ③絵本読み聞かせ、パンダタイム

毎月第 1 土曜日に全年齢を対象にした絵本読み聞かせを、第 3 木曜日に 0～2 歳を対象にしたパンダタイムを開催しました。対象年齢を分けることで年齢に合った絵本を選び、より楽しめる雰囲気づくりを心がけ 1 冊 1 冊丁寧に読み聞かせを進めてきました。絵本の好きな子どもは読み終わった後に「もう 1 回」とリクエストすることもあり、イベント後に母親の膝の上で同じ絵本を読んでもらっている場面も見られました。絵本は子どもの想像力と情操を育む上でとても良い材料だと思いますので、今後も回数を重ねていきたいと思っています。

#### ④ ホット・ほっとタイム

毎月第3木曜日の午前中に子育て中の保護者を対象とした「ホット・ほっとタイム」を開催してきました。育児中の保護者にコーヒーや紅茶を飲みながらホッと一息つける時間を持ってもらうと同時に子育て中の悩みや喜びを共有してもらっています。母親がテーブルでゆっくりとお茶を飲んでいる間、子ども達は好きな玩具を持ち寄って自由に遊んでいます。更に、リラックスできるように季節の花を飾ったり、BGMを流して雰囲気づくりに努めてきました。

#### ⑤ ママのためのハッピータイム（ママハピ）

子育て中の母親に少しでもHAPPYな時間をもってもらおうと今年度から実施したイベントです。5月は職員による「ダンスエクササイズ」、7月と3月は外部講師による「足つぼマッサージ」12月には農園で採れたサツマイモのつるで作った「クリスマスリース作り」の計4回を実施しました。実施後のアンケートでは「とても良かった。また来年もやってほしい」という声が多く、来年度もニーズに答えて実施する予定です。それぞれ15分～30分と短時間でしたが、自分だけの時間を持てたことでリフレッシュし、また新鮮な気持ちで子どもと向き合えるのではないかと思います。

#### ⑥ ちびっこ運動会、ミニミニ運動会

昨年度と同様に、5月にちびっこ運動会、11月にミニミニ運動会を開催しました。半年間の乳幼児の成長の変化がみられることもあり、人気の高いイベントの一つです。ハイハイしていた子が歩けるようになり、歩いていた子は走れるようになります。子どもの成長によって参加できる種目や競技が異なるので、子どもの成長に合わせ、かけっこや、チャレンジゲーム等を行いました。乳幼児期に同じ月齢の子どもと交流しながら遊ぶことは子どもたちにとって良い刺激となったようです。稀にいつもと違う児童館の雰囲気に戸惑う子どももいましたが、ほとんどの子ども達が笑顔いっぱい楽しんで参加していました。

また、今年度もイベントを日曜日に開催することで、父親や祖父母と一緒に参加する子どももいました。家族全員で楽しめるイベントとなっているので、保護者からはとても好評でした。

#### ⑦ にゃんこの手（オーエンジャー☆みなみ）

子育てオーエンジャー☆みなみは子育て中の母親に研修を受けたボランティアがお茶やハンドトリートメントを提供しながら育児中の母親の悩みをサポートするボランティア団体です。白根北児童館が位置する北部では「にゃんこの手」と命名し、今年度から児童館でも活動を始めました。家に閉じこもりがちな親子から気軽に参加してもらい、オーエンジャーや参加者同士で子育ての悩みや愚痴を聴くことを目的に実施しました。内容はお茶やお菓子を出しながら、ハンドトリートやミニピアノコンサート、親子体操等を提供しました。多い時は20組以上の参加者があり、広い遊戯室が手狭になるほど活気で溢れていました。気楽にオーエンジャーや職員、母親同士が交流している場面が見られました。参加した母親から高いニーズがあったことから、来年度も引き続き、活動の輪を広げていきたいと考えています。

## ⑧ 移動児童館

乳幼児の移動児童館では9月と1月に大通保育園、11月に根岸保育園、2月に大鷲保育園の3つの保育園を回りました。上半期に園外保育で児童館に遊びに来ていたことから移動児童館の依頼を受けた園もありました。内容は主にカプラとリトミックを提供しました。カプラは2000～4000ピースを持参し、基本の「ねる・おきる・たつ」の置き方から年齢に合わせたプログラムを30～40分間実施しました。リトミックも年齢によってプログラムを変えて行いました。音楽を使って楽しく体を動かしたりリズム遊びを児童館のリトミック有資格者が提供しました。各保育園児と児童館職員がふれあうことで、より児童館を身近に感じてもらい、気軽に来館してもらうことを目的に行ってきました。

## ⑨ 季節行事

定例の乳幼児イベントの他に季節に合ったイベントも多く実施しました。春はじゃがいもやさつまいもの苗植え体験、7月七夕会、10月ハロウィン、12月クリスマス会、2月豆まき会、3月ひなまつりとそれぞれの季節を感じながら月齢の低い乳幼児が無理なく参加できる内容を提供してきました。どのイベントもキャンセル待ちが出るほど人気で親子で楽しんで頂けたようです。今後も昔からの伝統行事を取り入れながら楽しい企画を提供していきたいと思えます。

## ⑩ パパとあそぼう

年間を通して乳幼児の保護者は母親が多いのですが、白根北児童館では週末になると父親が我が子連れて来館されることも多いことが特徴です。そこで今年度初めて6月の父の日にちなんで「パパとあそぼう」というイベントを実施しました。育児に関心があり、母親に協力したい父親は多いのですが、あまり積極的にイベントに参加される父親がこれまでは少ないようでした。そこで外部から子育て中の男性講師を招き、絵本の読み聞かせやふれあい遊びなどを実施しました。元々、育児に協力的な父親と幼児が10組程集まりました。講師から父親ならではのダイナミックな遊びを教わったり、子育ての悩みなど話合いました。母親とは違った視点から子どもに愛情を注ぐ体験談など聞かれ、大変有意義なイベントとなりました。来年度は更に気軽に参加できるような工夫をし、継続していきたいと思えます。

## (2) 来期の目標・課題

開館から5周年を迎えた白根北児童館。今年度は近隣の地域だけでなく区外からも多くの来館がありました。母親だけでなく祖父母が孫連れて来館してくれることも多くなってきました。一方で地元でまだ児童館が乳幼児も利用できることを知らない方も多く、引き続きお便りや移動児童館などでPRに力を入れていきたいと思えます。特に出産後、間もない母親に子育て支援講座やベビーマッサージなどを通して児童館を利用してもらえたらと考えています。これまでも子育て支援講座に参加した母親がママ友連れて来館し、子育ての情報交換を行ってきたことから更に南区以外にも情報を発信していきたいと考えています。来期は今年度実施してきたイベントに加え、新しいイベントも取り入れていきたいと考えています。これまで実施してきたイベントのアンケートを元に子育て中の保護者のニーズに合った内容を提供していけたらと思えます。

### ① 保育園・幼稚園向けのイベント開催

今年度の乳幼児の来館状況の中で保育園児や幼稚園児は平日の夕方の利用が多く、週末には家族連れで来館する子どもがほとんどでした。そのため、運動会や人形劇は日曜日に開催してきました。来期も引き続き、イベントを日曜に開催することで年長児も参加できるよう考えていきたいと思っております。特に人形劇などは近隣の保育園も招待し、多くの子どもたちから参加してもらいたいと思っております。また、園外保育も積極的に受け入れたいと思っております。今年度は南区の4つの保育園から遊びに来てもらいました。保育園で遊びにきたことがきっかけで週末に家族で来館された親子もおり、児童館が幼児にもりようできることを知って頂きたいと思っております。

## 2. 小学生事業

### (1) 総括

今年度の小学生の延利用者人数は、6,790人と来館者の枠組みで一番多い利用者数となりました。平日の利用は低学年が多く、高学年は部活動や下校が遅く、なかなか来館できませんでした。それでも夏休みや冬休みの長期休みには毎日のように来館してくれる小学生もいました。子どもたちの生活の中に児童館が根付いてきているのを感じています。また、今年度の来館者増で大きな要因となった一つが移動児童館でした。秋以降から南区の学童クラブや区外のひまわりクラブからも依頼があり、カプラや児童館の遊びなどを提供してきました。そして今年度は5周年ということで夏休み企画や5周年祭、普段のイベント、移動児童館の中に5周年の5にちなんだイベントを折り込み、たくさんの小学生が参加してくれました。普段の小学生の遊びは主に体を動かすバドミントンやバレーボール、サッカー、バスケットボールですが今年度はオリンピックの影響もあり、卓球も男女ともに人気のあったスポーツでした。静かな遊びではカプラやパズル、カードゲーム等が人気でした。また、これまでイベントの企画はほとんど職員が提供してきましたが春の「わくわくスペシャル」と夏まつりのオープニングダンスパフォーマンスは子ども達からの声で実現した企画です。今後もこうした児童館の運営に子ども達が積極的に発言できる場を作っていけたらと思っております。

### ① 毎月のメイン行事

『ドッジボール大会』、『バドミントン大会』等のスポーツ大会、『ハロウィンを楽しもう』、『クリスマス会』、『七夕コンサート』『豆まき会』『ひなまつり会』等季節のイベント、『夏まつり』や『5周年祭』、『進級お楽しみ会』のお祭りイベントを児童館の目玉行事として、毎月1回開催してきました。

今年度は「わくわくスペシャル」や「5周年祭」で子ども達の意見を取り入れたイベントが実現し、『児童館』がより身近な存在になってきたと思っております。イベントの準備段階から関わることで失敗や成功、達成感をまた、子どもたちにはイベントに参加するだけでなく、イベントを企画し作り上げる楽しさも味わってもらいたいと考え、子どもたちがイベントに気軽に参画できるように配慮しています。意見箱やアンケートから子ども達の意見やアイデアを聞き、積極的に取り入れて楽しいイベントを開催しています。また子どもたちにイベントの企画準備から関わってもらうことで、達成感や成功体験を重ねてほしいと願っています。また、今後も季節を感じられる子ども達に喜ばれるイベントをどんどん企画していきたいと思っております。

## ② わくわくタイム

毎週月曜日の16時30分から30分間、小学生対象に遊戯室でドッジボールや鬼ごっこなど主に体を動かす遊びやレクリエーションを行っています。館内に次回の内容をポスターで告知している子どもたちは毎週、楽しみにしています。1年生から6年生までの異年齢と一緒に遊べる「わくわくタイム」では、高学年は低学年に優しいボールを投げるなど思いやりの気持ちを持って接し、低学年は集団遊びの楽しさや友達と遊ぶ楽しさを学びます。また今年度「わくわくタイム」で特に人気のあった遊びを子ども達が投票した「わくわくスペシャル」はとても好評でした。

## ③ つくってあそぼう

工作イベントとして、毎月第4土曜日の午後2時から3時に『つくって遊ぼう』を開催しました。工作イベントでは、身近な素材を使った工作遊びを通じて、物を作る楽しさ、作ったもので工夫しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを知ることが目的としています。

今年度は女子の参加が多かったことから『スイーツデコ』や、『アクアドーム』『ステンドグラス』等が人気でした。各回定員8名の予約制で実施していますが、特に人気だった工作についてはキャンセル待ちが何人も出るほどでした。今後も子ども達のニーズにあった工作を提供していきたいと思えます。

## ④ 移動児童館

移動児童館は様々な遊びを通して心身共に豊かに成長していく環境づくりのお手伝いを図ることを目的としています。今年度は南区の大通コミュニティセンター、学童保育の大鷲っ子クラブを始め、区外のひまわりクラブからも声がかかりました。職員が出向いて主にカプラや体を動かす遊びを提供してきました。中には初めてカプラに触れた子どももおり、一枚の木片から無数の作品が出来上がる喜びを知り、目を輝かせ夢中になって遊んでいる子ども達をみる事ができました。また各々の場所で移動児童館に呼んで頂いた理由をお聞きすると、地元の人の紹介や口コミで評判を聞いたので依頼しました、という嬉しい言葉もたくさん頂きました。今年度はこうした実際に来館された方の言葉が何よりも児童館のPRになりました。

## (2) 来期の課題・目標

### ① 子どもたちと一緒につくる児童館

本年度は子ども達が中心になり「わくわくスペシャル」やダンスパフォーマンスが実現しました。これまで職員が企画したイベントがほとんどだった中で子ども達自らの声で企画が実現したことは大きな進歩でした。来期は更にイベントに参加するだけでなく子どもたちのアイデアを積極的に取り入れて行きたいと思えます。そのためには職員が日々の子ども達の声に耳を傾け自分たちの意見が言える場を作っていかなければいけないと考えています。

また、10月から3月までは子ども達の下校時間が遅く、児童館も冬時間になるために小学生の来館者数が伸び悩む時期になるため、大きなイベントを週末にし、「わくわくタイム」の時間を繰り上げるなど工夫する必要があると考えています。

## ② 小学生の新規イベント

夏まつりに子ども達の声で実現したダンスや日頃から歌を口ずさみリズムに合わせて体を動かすことが好きな子ども達を見ていた職員から、来期は子どもたちと音楽に親しむ時間が合っても良いのではないかという提案があり、小学生の「音楽に親しむ」イベントを子どもたちと一緒に企画していきたいと思います。また、廃材を使って「自由工作の日」も月に一回設定したいと思います。こちらから提供するのではなく子どもの自由な発想でたくさん作品を作ってほしいと願っています。規定のイベントにも子ども達の声を取り入れたイベントを企画したいと考えています。そこから児童館がより楽しく、居心地の良い場所になってくれたらと思います。

## 3. 中学生・高校生事業

### (1) 総括

中学生の年間利用者数は1,254名、高校生は318名でした。昨年度より高校生の利用が増えています。中、高校生の遊びはバスケットボールやバドミントン、卓球など体を動かす遊びがほとんどでしたが、中高校生の女子は館内でゆったりとおしゃべりを楽しんでいることも多く、児童館がいつでも気軽に立ち寄れる『居場所』になってきていることを感じます。

反面、問題児とされている男子中学生も度々来館し、時々悪ふざけをすることもありました。その都度職員が真剣に向き合い、話し合いを重ねてきました。時に、中学校の先生とも情報交換をしながら対応してきました。問題行動を起こす子どもたちを言葉で理解してもらうことは難しいことでしたが、彼らを排除するのではなく行き場のない彼らにとって児童館が居場所になってくれることを願って対応してきました。また今年度は中高生向けに夕涼み会やイラスト大会を実施したことで自分たちだけのイベントができたと特に中学生女子に好評でした。中高生はほとんどの子ども達が部活動などのグループで来館することが多いのですが、稀に一人で来館する子どももおり、静かに漫画本等を読んで過ごしていますが、職員が何気なく話かけると少しずつ学校や家庭の悩みを話してくれる子どももいます。そうした子どもに今後も寄り添いながら居場所を作っていきたいと考えています。

### (2) 来期の課題

#### ① 中学生・高校生イベントの発展

今年度、中高生の夕涼み会を企画し、好評だったことから来期も中高生だけのイベントをさらに企画していきたいと思います。夕涼み会やハロウィン、クリスマス会など季節感のあるイベントを取り込んでいきたいと思います。また、来期も中学生の職場体験を実施したいと考えています。児童館は乳幼児から中高生までが利用できることから、中学生と幼児が交流できる絶好の場所なので是非活用してほしいと願っています。そこで児童館をより知ってもらいながら、夏まつりなどのイベントボランティアに繋ぐことができればと考えています。さらに中高生の感性を引き出したイベントが実現できたらと思います。そのためには、ふだんから職員一人一人が中高生と交流し、環境設定に気を配り信頼関係を築くことが必要となってくると思います。また、中高生向けの児童館PRの仕方も考えていかなければいけないと思っています。

## ② 職場体験・ボランティア実習の受け入れ

今年度も中学校のコーディネーターから中学2年生の職場体験の依頼がありました。昨年度も、幼児さんとの交流が中学生にとって良い体験になったと中学校から好評を頂きましたので今年度も引き続き依頼があり、7月に実施しました。中学2年生女子4名が参加し、幼児と関わっている表情はいつも来館時に見せる無邪気な顔とは違い真剣な表情で取り組んでいました。さらに児童館の流れや児童館職員の仕事を知ってもらう良いきっかけとなりました。参加した保護者も微笑ましい様子で見守っており、今後も引き続き中学生の職場体験を受け入れていきたいと思ひます。また、今年度はボランティア実習の受け入れはありませんでしたが、引き続きボランティア登録を受け入れていきたいと思ひます。